株式会社 オーエックスエンジニアリング

千葉市若葉区中田町

テニスの国枝慎吾選手や上地結衣選手、陸上の佐藤友祈選手など大勢のパラリンピック・メダリストをサポートする競技用車椅子のトップメーカーの一つ。オートバイの事故で車椅子生活になった創業者・石井重行氏が、既存の車椅子に納得できず、自ら作り始めたことを出発点として、1988年、千葉市に本社を設立。車椅子製造事業に進出する。

小紙編集部記者・稲しん子が、千葉市で活躍する個性的な企業を訪ね、躍進の理由を探る「チバカツカンパニー」シリーズ。第1回は、千葉市若葉区の競技用車椅子メーカー・オーエックスエンジニアリングさんです。広報室の櫻田太郎さんから、業界の先端を走る企業ならではの興味深いお話が伺えました。

稲・オートバイから競技用車椅子の分野に進出するきっかけは何だったのですか？

櫻田さん（以下・櫻） 私たちはもともとオートバイの販売店で、レース活動もしていました。エンジンを開発したり部品を製造したりするファクトリーでもあったのです。当時は東京の江戸川区が拠点でしたが、研究開発や工場としての敷地が必要になったため、1988年にこちらへ移転したのです。創業者が千葉市出身だったという縁もありました。

稲しん子（以下・稲） ああ、なるほど。周囲は住宅街ではありませんものね。

広報室・櫻田太郎さん

櫻・移転当時は一面の森と畑だったようです。会社の看板は掲げていなかったので、謎の施設に見えたでしょうね。その頃はエンジンや部品の開発のために発売前のオートバイが持ち込まれていたため、雑誌社に写真を撮られたりすると大変です。だからあえて存在感を消していました。

櫻・車椅子製造に業種転換する時点で、競技用車椅子を作ることは決まっていました。オートバイの販売店兼パーツメーカーが車椅子を作るというだけでは注目されません。まず競技で当社の車椅子を使った選手に良い成績を残してもらおう、と。憧れている選手が使っているシューズやラケットなら自分も使いたいと思うものでしょう？車椅子も同じことです。

稲・使ってもらうことで認知を広げるのですね。では、競技用車椅子を設計開発する上で、最も大事なことは何でしょう？

櫻・車椅子を必要とされる方は一人ひとり事情が異なります。競技の違いや体格、障害のある部位、プレイスタイルもそれぞれなので、車椅子はすべてオーダーメイド。一人ひとりの話をよく聞いて、要望を理解する必要があります。具体的には、設計図に落とし込む前の採寸の段階がとても大事なのです。

稲・そういったノウハウを日常用の車椅子にフィードバックしていくのですか？

櫻・日常用も基本的にはオーダーメイドですけど、あらかじめ用途別やサイズ別、デザイン別に部品を在庫しておき、注文に応じてそれらを組み合わせています。あとから別の部品をつけ替えることも容易ですが、やはり使う人の要望を細かく聞き取る必要がある点は、競技用と同じです。

稲・日常用も使う人それぞれの生活に深く踏み込む必要があるのはわかります。学校に行ったり職場に行ったり、それこそ朝起きてから寝るまで、一日中使うものですし。

櫻・ですから乗り心地の快適さも重要ですし、機動性の高さも大事。それと見た目の良さですね。ファッションと同じように、気に入った色やデザインであれば、お出かけも楽しくなるはず。外出したくなるような製品であることは大切だと思います。

稲・競技用車椅子はいわばレーシングカーで、日常用は普通乗用車という感じなのかと思いますが、根本的には何が違うんですか？

櫻・競技用車椅子は選手それぞれの目標達成のため、軽さや剛性、フィット感を重視し、思い通りのプレーができるように作っています。日常用は使いやすさと耐久性重視。もしトラブルが発生したら、外出できない、あるいは帰宅できないといった事態になってしまいかねませんから。

稲・子供向けの車椅子にも注力されているようですが、どんな配慮が必要となりますか？

櫻・私たちの製品はオーダーメイドですから、子供用に小さくつくることは可能なんです。しかしそれだと特別料金が掛かり、大人用より高価になってしまいます。成長に合わせて買い替えることも考えると、コストの負担は抑えたい。そこで、小さいサイズ・大きいサイズを選んでもらう既製タイプにしました。身体を動かすことの楽しさを知ってもらうための、いわば入口となる製品です。

稲・素敵です。子供の時にオーエックスと出会ってスポーツを始めた人は、きっと大人になってもオーエックスを使い続けてくれるでしょう。

櫻・将来そうなってくれればいいなと思っています。

稲・将来と言えば、経営理念として「未来を開発する」という言葉を掲げていらっしゃいます。どのような未来を目標とされているのか教えてください。

櫻・私たちが考えている目標は、車椅子を必要とされる方が新たな体験をしていただけるような製品づくりを拡充することです。ふだんできなかったことができるようになるとか、お出かけしても疲れないとか、日常の中で小さな幸せが一つずつ増えていけば、生活はより快適で豊かになっていく。そんな製品作りを進めていきたいと思っています。

稲・期待しています。今日はありがとうございました！

日常用と競技用を乗り比べてみてみた。競技用は軽い力で動かせて回転もしやすい。「テニス用やバスケットボール用の車椅子は車輪をハの字型に取り付けています。こうすることで小回り性能が上がり、プレーの幅が広がるのです」（櫻田さん）。

アルミを溶接してバスケットボール用車椅子のフレームを製作。「アルミは軽くて強くて加工しやすく、修理も容易。車椅子に適した材料の一つです」（櫻田さん）。マグネシウム合金やカーボンを用いた製品もあるそうだ。

競技用車椅子は使用する選手それぞれに設計が異なるため、すべて本社敷地内の作業場で1台1台手作りされている。

★ **稲毛新聞編集部記者　稲しん子（いな　しんこ）**

千葉市に住むこと30年以上。年間に約200件の取材を行うなど、話を聞くことが大好きで好奇心旺盛なミドルエイジ記者。稲毛新聞から「稲」と「新」の２文字をもらいペンネーム「稲しん子」と命名された。最初はちょっと変な名前だと感じていたが名乗っているうちに愛着が…。「稲しん子にぜひ取材してほしい」という千葉市の企業様、ご連絡お待ちしています。

次回発行日は3月4日（金）

身近な情報は電話〇四三（二五六）四四一四へ

モノレールストーリー「春遠からじ」

吉成庸子

絵美は30才。新婚半年目の新妻だ。だけど、今月に入って赤ちゃんが出来たのが解った。今もモノレールに乗って、千葉の病院へ行く途中なのだった。

絵美の両親は絵美が赤ちゃんの時離婚している。だから絵美は母親の顔もしらない。育ててくれたのは父親だった。父は勤めのかたわら、本当に一生懸命、絵美を育てるためにだけ生きていると言っても不思議ではないだろう。千葉に近い都賀という所にあるマンションの部屋で二人で本当に仲良く暮らしながら絵美は大きくなった。

やがて絵美が大学を卒業し、希望道りの化粧品関係の会社に勤める事が決まると、父親が突然、「絵美も、もう一人前になった。一人暮らしをしてみなさい。そしていい人を見つけて、早く結婚して、可愛い孫を生んでおくれ」といいだした。予想もしてなかった話に「いやだ。お父さん。私お父さんと一緒がいい、今まで通りにしよう」と絵美はごねた。「わがまま言うな。俺もこれでやっと役目がすんだんだ。少しは気楽に好きな事したいさ」父の言葉を聞きながら絵美もしみじみ思うものがあった。

27才で絵美の父親になってから、ずっと絵美を育てるためにがんばってきたのだ。楽しみと言えば会社の人とたまに行くゴルフ位のものだろう。再婚話を時には持ち込んできた人もいたが、父は一切耳をかさなかった。

「お父さん、結婚したら？まだ若いんだから再婚すればいいよ。まあ私より若い奥さん貰われるのはイヤだけどさあ」冗談めかしてすすめてみたが、「俺は二度と結婚なんてしないと決めてるんだ。それより絵美が結婚しないと心配だ。早く優しくてまじめな青年さがしてきて、俺を安心させて欲しいよ」と逆に父からそう言われてしまった。

それから間もなく絵美は、家から歩いて15分程のアパートの一室にひっこした。部屋代3ケ月分は父が援助してくれると言う。こうして絵美の一人暮らしが始まった。最初は父の所へちょくちょく顔を出していたが、気がついたらほとんど行かなくなっていた。たまに休日一緒に外食したりする様にはなったのだが父は会社の帰り良く飲んでいるそうだ。絵美と暮らしている時はわずかばかりのビールや日本酒を家で飲んでいた。

一方絵美も2、3人ボーイフレンドが出来てたまに食事に行ったりしている。だがなかなか恋人はできなかった。仕事もおもしろくなく早く目標としている化粧品店を出したいと願うようになった。だがそれには資金を作らなければ…。絵美は思い切って夜も働くことにした。

中学時代の同級生で千葉のクラブでホステスをしている友達にたのんで絵美はアルバイトホステスとなった。父ゆずりで酒はかなり飲めるし、明るい性格なので、夜の仕事にもすぐ慣れた。父にバレないように気をつけていたがやっぱりバレた。父は怒り、絵美の結婚相手をみつけてきた。見合いをした。30才、サラリーマンで背も高く人柄もよさそうな男性なので、絵美の心は少し動いた。2人は2、3回デートしなんとなく結婚に向かって進みだしていき、父も喜び「これで俺もホッと出来る」と笑い顔で絵美に言った。

だが思わぬ反対が出た。相手の家で一応絵美の身元調査をしたのだろう。夜のクラブで働いているのがわかり母親が強くやめろと主張したそうだ。絵美は「夜の仕事のどこが悪いの？立派なおもてなしの仕事だわ」と反論したが母親の言いなりになる男性にも嫌気がさした。絵美は父のしょんぼりした姿をみるとつらかった。そしてじっくり考え地道に昼間だけ働こうときめたのだった。そして何社目かでやっと希望に近い職種の会社に入ることが出来た。

通勤にモノレールを使った。そして入社する初日、絵美は前につき合っていた彼とバッタリ、モノレールの中で再会した二人の交際は再び始まり、二年近くたった頃には恋人同士になっていた。彼は不動産会社の一人息子で3歳年上。真面目な男だった。絵美の父にもきちんと挨拶をしてくれ父も彼を気に入ったらしい。

「嬉しい。絵美が早く嫁いでくれなきゃ、俺は酒飲んでも酔えない気分だったんだから」なんて口にしながら、本当に嬉しそうだった。絵美の30歳のバースデイの日に結婚式をあげた。そして夫の親達と同居する運びとなった。勿論絵美は退社していたので夫の母親とは一日中家で顔を合わせている。でも母を知らない絵美は自然な形で夫の母親に接することができた。そのせいか、いい嫁をもらったと絵美の評判は存分いいらしい。その上子供が出来たと報告すると、夫の両親は「これで後継ぎの後継ぎまで出来た」なんて大げさに喜んでいる。もっと喜んでいるのは絵美の父だった。「そうかそうかそりゃでかした。元気な赤ん坊を生むんだぞ。こんな嬉しいことはない。今日は良い日だ」と叫んでいた。

モノレールの窓越しに眺める空は春の近さを感じさせるうすいブルーをしていた。何故か急に絵美は実の母は何処でどうしているのだろうかと思った。一度も実の母に心をはせたことなんかないのに。自分が母親になるからこんな気持ちがわいてきたのかもしれないとかんじるから、絵美は私はいい母親になるんだと強く心に誓っていた。

随筆　感謝でいっぱい

吉成庸子

風の冷たい一日だった。冬だから寒くても当たり前だけど、今年の寒さは例年より少しきついようなきがする。年齢を重ねたせいなのだろうか？

現在私は、日曜のお昼12時～12時30分に千葉テレビで放映されている「お昼の怪傑ＴＶ」という番組に出演している。前半は千葉県内の市町村を訪ね歩いて市町村長さんにお目にかかり、お話を聞いたり、名所、名産品等をご案内して頂く。どこの首長さんも地元をとても大切に思い、ますますの発展のため一生懸命がんばっておいでなのがありありと伝わってきて頭が下がる。

市原市出身で四街道在中の私、千葉県内の事は、知っている方だと思っていたが、ビックリした。千葉県にはもっともっとたくさんのステキな場所、歴史、名産品、おいしい食物がいっぱいある。観光地として千葉県は世界中の人にもっと来て頂きたいとつくづく感じたのだった。

テレビは二本立てになっていて後半は「馬ピカ」というドラマだ。その中で私は俳優さんにまじって二役をやっている。しかも一役の方は馬の妖精「アンジーのばばあ」という真赤な髪でへんてこりんな服で登場する。なんともいえない珍妙な姿だ。誠に恥ずかしいのだが、引き受けた上はやるしかない。雨の中でも風の中でも、精一杯やっている。

つい2、3日前の事だ。千葉市で市議会議員をしておいでの、うるま又衛門先生がテレビを毎週観て下さっているというステキな3人の女性を連れて来て下さった。その方々は「稲毛新聞」もずっと前から毎回楽しみに読んで下さっているそうでとても嬉しかった。又衛門先生あや子奥様には、いつも親切にして頂いている。

私の実家に又衛門という名の人もいたし、私の父は又一郎、弟は又五郎と又八郎という名だ。そんな点から昔からずっと親近感をもっておつき合いさせて頂いている。少しも気取りのない、優しいご夫婦とはずっと仲良くさせていただきたいと思っている。

ところで私の亭主儀ちゃんが他界してもう6年余り。私の出版記念の折などいつも会場の隅で小さくなって座っていた姿が目に浮かぶ。もし「アンジーのばばあ」を演じている私をテレビで観たら一体何と言うだろうか？きっと「お前は一体いくつだ。みっともないことをやるな！」と怒るかな？でも、もしかしたらこっそりテレビ観ているかもしれないなとも考えた。私は思わず儀ちゃんの写真に向かって「パパ、私何をやるのも一生懸命やってるんだから応援してネ」と両手を合わせて頼んだ。

それにしても私の出ているテレビを観て下さる方や稲毛新聞を読んで下さる方々がいるのは本当にありがたいことだ。感謝！

千葉市動物公園へ新たなバス路線開設

千葉内陸バスは千葉市動物公園と千葉駅、西千葉駅それぞれを結ぶ新規路線を開設、1月16日から土休日限定で運行を開始した。

千葉駅路線は現在の「みつわ台団地線」のルートを延長活用、高品交差点～みつわ台団地を通るルートになり運行本数は千葉駅発、千葉市動物公園発それぞれ5本の計10本。運賃は250円。西千葉路線は途中の停留所に一切停車しないノンストップ運転を行い約15分で結ぶ。運行本数は西千葉駅発が1日4本、千葉市動物公園発が3本。運賃は220円。

西千葉駅路線（青）千葉駅路線（赤）